

立川市民オペラ公演2019  
J. シュトラウス二世 作曲 オペレッタ「こうもり」  
公演日 平成31年3月16日(土)、17日(日)



立川市民オペラ合唱団より

「こうもり」の音楽稽古が始まりました。立川市民オペラ合唱団にとって、初めてのオペレッタです。他の団体での「こうもり」経験者はいませんが、日本語での上演だったりして、ほとんどの団員がドイツ語で歌うのは初めてです。4月は第2幕を丁寧に練習しました。やはりドイツ語は難しく、新たに講師になられた高田智士先生からも、発音を繰り返し指導していただいています。特に子音を注意されました。子音がはつきり言えるように奮闘しています。ドイツ語が難しい反面、オペレッタの楽しさを練習の初めから感じて、なんだかワクワクします。私たちが感じている楽しさが、舞台上で表現できるように1年間頑張ります。

オペラ愛好会より

毎年開催しているガラコンサートの「名歌手たちの夢の饗宴」も第8回目を迎えます。今年は、メゾソプラノの清水さん、テノールの笛田さんと福井さんが再登場。ソプラノの森谷真理さんが初登場します。

2018年5月 発行  
立川市民オペラの会  
〒190-0022  
立川市錦町3-3-20  
たましんRISURUホール  
(立川市市民会館)2階  
(公財)立川市地域  
文化振興財団 内  
TEL042-526-1312  
FAX042-525-6581



オペラのいろは

皆さんにオペラに親しんでいただけるよう、今号から「オペラのいろは」を連載します。今回は、オペラ鑑賞歴15年の「M」さんから、作曲家別誰でも分かりやすいオペラの楽しみ方を聞いてみました。

私のオペラの楽しみ方

「オペラ」と聞くと、多くの人には、お堅い音楽、チケットが高額、貴族の道楽、ストーリーが分かりにくい、正装...といった印象をお持ちでしょう。事実私もそう感じていました。が、良さを知ってしまえばこれ程楽しいものはないと思うようになりました。普段着で気軽に音楽を楽しむ、名場面に感動すればよいではないですか。オペラ鑑賞には各人それぞれの楽しみ方があると思います。私の鑑賞の仕方は次のようになります。

**モーツァルトのオペラ**  
ストーリーの劇的さ、感情の激しさはないが、音楽はやはりモーツァルト、そのモーツァルトトーンを楽しむ。どれもハッピーエンドなので、明るくて心が和みます。

**ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニのオペラ**  
ベルカント唱法で歌われる美声、音量、技術、表現力に富む歌を楽しむ。要は「歌」の力です。

**ヴェルディのオペラ**  
ドラマの劇的さと、説得力のあるアリアを楽しむ。ほとんどが悲劇なので、緊張しながら聞きます。

**ワーグナーの楽劇**  
交響曲のような重厚なオーケストラの響きと、大きな流れを楽しむ。長大な作品なので、悠然として聞きます。

**プッチーニのオペラ**  
オーケストラの情景描写や、レシタティーヴォの要素も含まれるアリアを楽しむ。それと、東洋的なモチーフにも注目。「蝶々夫人」のラストシーンでは、涙のご用意を。

**リヒャルトシュトラウスのオペラ**  
オーケストラの前衛的手法による高度な情景描写と心理描写、それに乗る近代的なアリアを楽しむ。

※(いろは)は、今後様々な方に発信していただく予定です。どうぞお楽しみに♪

連載「オペラがますます面白くなる！」 **しっとくNAVI**

ボーン吹き (H.S.)  
オペラ好きなトロンボーン吹き

にらにで世の別 ーるに ー姫めのすエりくりこ全れは味さと目レ作 ーて ー  
なれよ `界王格こよ比歌なか凝がン `のくの体 ` ーでなはでッ品こは椿  
つるっ超中様 `ううべ劇ど `ら `ド最作る訳の才喜すオイすタはう `姫  
て `て一の ーもで ` ーに残なこを期品よの傾ペ歌がペタ `と ーり気  
お重も流 ーとオリす軽才代念いの迎ははう方向レ劇 `ラリオ呼 ー般  
り要取の流もペ `くペ表な内よえハ喜でがとッ ー日とアペば ーに `喜  
なり指歌言レだし見ラさが容うるッ劇すしシタと本いい語レれ `オこ歌  
演上揮劇わッけから `れらののにのピで `って作訳語うでッるオこ歌  
。目げ者場れタはしれ `る椿た肩で `あ多くも品さで意小タ演ペの劇し

